

リン酸オセルタミビルの服用後に死亡した16歳以下の小児症例（平成18年1月20日現在）

すべての症例で、リン酸オセルタミビルとの因果関係は否定的とされている。

No.	年齢/性別	報告年	事象	1日用量/投与(処方)期間	併用薬
1	3才/男性	2000年 (死亡)	肺炎 脳浮腫 くも膜下出血	25mg/5日間	ジクロフェナクナトリウム セフジトレン ジアゼパム フェニトイン アマンタジン
<p>発熱のためジクロフェナクナトリウム坐薬を使用。一時解熱したが、その後入院し、セフジトレンを服用。その後意味不明な内容を話し出し、痙攣を発現熱は42℃。ジアゼパムとフェニトインを投与されたが昏睡状態になり、状態の悪化が持続。脳ヘルニアと診断。インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビル(5日分)とアマンタジンの投与を開始。5日後、脳浮腫及びくも膜下出血が認められた。さらにその約6週間後に肺炎で死亡。</p>					
2	5才/女性	2002年	窒息 嘔吐	75mg/5日間(処方)	セフジニル クロモグリク酸ナトリウム フマル酸ケトチフェン
<p>喘息に対し、クロモグリク酸ナトリウム及びフマル酸ケトチフェンを投与されていた(開始日:不明)。リン酸オセルタミビル75mg/日を5日分、及びセフジニル(2日分)を処方され、翌日、窒息(痰、嘔吐物等)を発現。日付不明時に、死亡(死因:不明)。主治医によると、リン酸オセルタミビルを服用したか否かは不明。</p>					

3	2才/男性	2003年	突然死 心肺停止	25mg/1日間	塩酸シプロヘプタジン ヒベンズ酸チペピジン 塩酸ブロムヘキシシ
<p>水痘と診断された約3週間後、インフルエンザA型と診断。軽度の仮性クループが認められたが、陥没呼吸は認められなかったため、入院せず帰宅。帰宅後、リン酸オセルタミビル25mgを服用（併用薬は上記のとおり）。その日の夕方、呼吸状態が悪化し、救急で搬送される途中で心肺停止。心肺蘇生術が行われたが、死亡。主治医によると、インフルエンザによる心筋炎等が疑われるとされた。</p>					
4	2才/男性	2002～2003年	突然死 脳浮腫 肺水腫	不明/1-2日間	不明
<p>睡眠中に突然死亡した小児に関する報告*における1例。2002-2003年のインフルエンザシーズン中、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを服用。1～2回服用後、突然、深夜の睡眠中に死亡したが、死亡以前には特に異常な変化は認められず、剖検の結果、脳浮腫と肺水腫を確認。</p> <p>*塩見正司：インフルエンザ脳症の臨床スペクトラム 小児内科 35(10)：1676-1681, 2003</p>					
5	2才/男性	2002～2003年	突然死	不明/1-2日間	不明
<p>睡眠中に突然死亡した小児に関する報告*における1例。喘息の既往歴あり。2002-2003年のインフルエンザシーズン中、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを服用。1～2回服用後、突然、深夜の睡眠中に死亡したが、死亡以前には特に異常な変化は認められなかった。</p> <p>*塩見正司：インフルエンザ脳症の臨床スペクトラム 小児内科 35(10)：1676-1681, 2003</p>					

6	3才/男性	2002～2003年	突然死	不明/1-2日間	不明
<p>睡眠中に突然死亡した小児に関する報告*における1例。2002-2003年のインフルエンザシーズン中、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを服用。1～2回服用後、突然、午睡中に死亡したが、死亡以前には特に異常な変化は認められなかった。</p> <p>*塩見正司：インフルエンザ脳症の臨床スペクトラム 小児内科 35(10)：1676-1681, 2003</p>					
7	3才/男性	2002～2003年	突然死 小脳扁桃ヘルニア 肺水腫	不明/1-2日間	不明
<p>睡眠中に突然死亡した小児に関する報告*における1例。喘息の既往歴あり。2002-2003年のインフルエンザシーズン中、インフルエンザA型と診断され、リン酸オセルタミビルを服用。1～2回服用後、突然、午睡中に死亡したが、死亡以前には特に異常な変化は認められず、剖検の結果、小脳扁桃ヘルニアと肺水腫を確認。</p> <p>*塩見正司：インフルエンザ脳症の臨床スペクトラム小児内科 35(10)：1676-1681, 2003</p>					
8	9才/男性	2004年	急性膵炎	75mg/5日間(処方)	塩化レボカルニチン メトロニダゾール 耐性乳酸菌製剤 ガラクトシダーゼ 炭酸水素ナトリウム ブドウ糖 塩化ナトリウム カルボシステイン ファモチジン エポエチンβ(遺伝子組換え)

<p>出生時よりメチルマロン酸血症にてしばしば重篤なアシドーシスに陥ることがあり、さらに精神発達遅滞及び脳性麻痺の既往あり。インフルエンザ A 型と診断され、リン酸オセルタミビル 75mg/日 (5 日分) の処方を受けた (併用薬は上記のとおり)。4 日目に嘔吐頻回となり、入院。5 日目明け方より、多呼吸、意識レベル低下あり、急性膵炎を発現。その日の午後、突然の呼吸停止、心停止となり、次の日の早朝、死亡。剖検の結果、急性膵炎を確認。なお、主治医によると、リン酸オセルタミビルをどの程度内服していたかは不明。</p>					
9	8 カ月/男性	2004 年 (死亡)	肺炎 呼吸不全	18mg/5 日間	フェノバルビタールナトリウム、ジアゼパム、塩酸ブロムヘキシシン、クロモグリク酸ナトリウム、硫酸アミカシン、塩化カリウム、グルコン酸カルシウム、ヘパリンナトリウム、フロセミド、スピロラクソン、ベラプロストナトリウム、L-カルボシステイン、塩酸プロカテロール、塩酸シプロヘプタジン、アミノフィリン、硫酸サルブタモール、セフメタゾールナトリウム、セファゾリンナトリウム、ミダゾラム、塩酸ドパミン、パニペネム・ベタミプロン、乾燥スルホ化人免疫グロブリン、維持液、抱水クロラール、アセトアミノフェン、人赤血球濃厚液
<p>心室中隔欠損症、ダウン症の既往あり。インフルエンザ A 型と診断され、リン酸オセルタミビル 18mg/日を 5 日間服用 (その後の経過を含め、併用薬は上記のとおり)。その約 2 カ月後、肺炎を合併し、呼吸不全で死亡。</p>					
10	2 才/男性	2005 年	心肺停止	18 又は 36mg/4 日間	フェノバルビタール

<p>水頭症、アーノルド・キアリ奇形、及びてんかん等の既往歴あり。脊髄髄膜瘤根治術、脳脊髄液シャント術等を施行。インフルエンザ B 型と診断され、リン酸オセルタミビル 18mg/日又は 36mg/日の服用を開始（併用薬は上記のとおり）。服用 2 日目、解熱し、嘔吐も消失したが、傾眠傾向が発現。3 日目及び 4 日目は両日朝のみの服用。4 日目の夜以降、心肺停止、蘇生を数回繰り返す。急性心不全、肺水腫、脳浮腫の所見あり。その約 2 ヶ月半後、敗血症及び心肺停止で死亡。</p>					
11	4 才/女性	2005 年	突然死 嘔吐 心肺停止	60mg/2 日間	アセトアミノフェン 塩酸シプロヘプタジン 塩酸アンブロキシソール
<p>喘息様気管支炎の既往あり。発熱から 3 日後に受診し、インフルエンザ B 型と診断され、リン酸オセルタミビル 60mg/日を処方（併用薬は上記のとおり）。その夜、本剤服用後、嘔吐が発現。服用 2 日目の朝、四肢末梢の顕著な冷感と疼痛を訴え、その後突然、心肺停止となり、死亡。主治医によると、心筋炎が疑われるとされた。</p>					
12	4 才/男性	2005 年	胸痛 死亡 心肺停止	64.2mg/3 日間	塩酸ツロブテロール ヒベンズ酸チペピジン 塩酸シプロヘプタジン アセトアミノフェン
<p>インフルエンザと診断され、リン酸オセルタミビル 64.2mg/日の服用を開始（併用薬は上記のとおり）。服用 3 日目の夕方、胸の苦しさを訴えたが、心電図、心エコー等の結果、異常は認められず、帰宅。帰宅後アセトアミノフェンを服用し、その夜、本患者は倒れ、救急車で搬送。救急車に乗せられた時点で心静止状態であった。その後日付不明時に心肺停止に続いて脳死状態になり、搬送から約 2 ヶ月後、低酸素脳症で死亡。</p>					
13	14 才/男性	2005 年	意識レベルの低下	75mg/1 日間	なし
<p>インフルエンザ A 型と診断され、リン酸オセルタミビル 75mg を服用。約 2 時間後に自宅（高層階）より転落し、出血性ショックで死亡。</p>					

14	6才/男性	2005年	突然死 胃腸出血	37.5mg/1日間	アモキシシリン 塩酸ツロブテロール ヒベンズ酸チペピジン 塩酸アンブロキシソール アセトアミノフェン 耐性乳酸菌製剤 ドンペリドン 塩酸ロペラミド ラクトミン
<p>ダウン症候群の患者。インフルエンザA型と診断され、夕方にリン酸オセルタミビル 37.5mg を服用。翌日昼すぎ、咳嗽あるため、急患センターにてエピネフリンを吸入。夕方、呼吸停止し、救急で搬送。消化管出血が発現。治療の効果なく、死亡。</p>					